

「前例なき皮膚科」を目指して

第2回

今春から新たに2人の先生が加わり、〈エールホームクリニック〉の皮膚科は専門医4人体制となりました。「前例なき皮膚科」のために、皮膚科の先生方は新たにどんなことに取り組み、どんな高みを目指しているのか。前号に続き、同院の皮膚科の現在と将来の展望をお聞きました。



▲左から、皮膚科の苅谷先生、藤本先生、梅森先生、松井先生。

編集(以下編)：4人体制になって、新たに始められたことはありますか？

苅谷先生：今までは、保険診療だけを主にやっていました。ただ、保険診療ではどうしてもできることに限りがあるので、そこがもどかしいところでもありました。そこで、4人体制になったのを機に、自由診療をスタートしました。もちろん「自由診療をスタートした」といっても、最初から自由診療をお薦めするということではありません。保険診療でできるところまでは保険診療で行い、その先も「自由診療で対応できます」とお伝えすることができるようになったということです。その方に合った方法をご提案できるのは、保険診療も自由診療もどちらもできるという強みだと思います。

藤本先生：皮膚科の医師が4人体制になったことで、受診当日の手術に対応できる機会が増えました。

編：来院したその日に手術が受けられることもあるということですか？

藤本先生：はい。病状などにより当日対応させていただく場合もあります。手術、と聞くと大きな病院に行つて受けるイメージが強いと思います。しかし、皮膚科でもできるのは体制さえ整えば、実はクリニックで対応できるものも多くあります。もちろんサイズの大きなものや悪性が疑われるものなどは大きな病院での治療をおすすめさせていただく場合もあります。手術に際しては的確な術前診断と評価が重要になります。当院では診断科専門医で相談して治療方針を決定します。また超音波技師もおり、手術前にエコー検査を行えるのも大きな強みです。患者さんの幅広いニーズにお応えできると考えています。

梅森先生：患者さんは受診した

編：なるほど……興味深いです。自由診療についてはもっとお聞

松井先生：「抜け毛増えたな」くらいのタイミングで始めるのがいいと言われてます。よく例えとして言うのは、波平さんみたいな状態で始めても手遅れです。「あれ、地肌が見えるかも」くらいのときに「抜け毛増えています。自分が「抜け毛増えたな」くらいのレベルで始めてもOK。予防くらいのレベルで始める方もいらつしやいます。

編：薄毛治療を始めるタイミングって、いつがいいんでしょうか。

松井先生：そうですね。薄毛はAGA(男性型脱毛症)といって、飲み薬での治療になります。

編：薄毛治療も皮膚科の領域なんですか。

梅森先生：はい。病状だけではなく、お肌の気になつていたり、もっともご相談いただければ、ピーリングや薄毛にも対応できるようになりました。

編：ホクロやシミでもいいんですか？

梅森先生：そうですね。気になつていなくとも、お肌の状態を改善させることもできます。シミ、ホクロ、ニキビなど「ちよつとどうかな」と思うことも気軽に相談してもらえればと思います。

めにご自身の時間を調整して来院されます。仕事の都合であったり、おやすみの日だったり、仕事を休んで来られたり、お子さんを預けられるタイミングだったり様々です。当院では手術日というのを固定で決めておりません。患者さんの都合のよいときに手術ができるよう、医師と相談の上で日程を決めています。中にはどうしても都合がつかず受診した当日に手術を希望される方もいらつしやいます。診療の混み具合によるのですが、可能な限りご希望に添えるように対応しています。気になつていなくとも、お肌の状態を改善させることもできます。シミ、ホクロ、ニキビなど「ちよつとどうかな」と思うことも気軽に相談してもらえればと思います。

★編集部・今回深掘りできなかった「自由診療」については、また次回たっぷりお話を聞きます。9月10日号をお楽しみに！

苅谷先生：4人の医師が皆、「可能な限り治療したい」「病院よりも質の高い医療をしたい」という目標を持っている。それが一番、「前例なき皮膚科」ということなのかもしれません。当院は病院ではなくクリニックですが、ゆくゆくは研修医の教育もできるようになれたら、とも思っています。

松井先生：みんな理想として、医師同士仲がいいといいな「こういう先生方が働いたら楽しいだろうな」と思つてもなかなか実現しないものなんです。皮膚科が4人というの珍しいし、内科小児科との連携というの、大病院だとなかなか難しい。科を超えて医師同士が気軽に話せるのは非常に「前例なき」ところだと思います。

梅森先生：大病院でも4人は多いですね。人数がいても、皮膚科専門医が揃つていないと限らないです。

藤本先生：まず、首都圏以外では一つのクリニックに4人の皮膚科専門医がいること自体「前例なき」といえます。全国的にも、当院の体制は恵まれていないかと。

梅森先生：大病院でも4人は多いですね。人数がいても、皮膚科専門医が揃つていないと限らないです。

きいたので、それは次回にまたたっぷりお話を聞きますとして(笑)、一旦締めに入らせていただきます。さて、「前例なき皮膚科」が今回のテーマだったわけですが、先生方が考えられる「前例なき皮膚科」とはどのようなものなのでしょう？

きいたので、それは次回にまたたっぷりお話を聞きますとして(笑)、一旦締めに入らせていただきます。

教えてドクター!

皮膚科 **Q** わきの汗がひどくて困っています。なにかいい治療はありませんか? 22歳 女性

A 明らかな原因がないのに日常生活で困るほど多量にわき汗がでる場合は、原発性腋窩多汗症の可能性があります。治療薬として内服薬や、汗を出す指令をブロックする働きのある外用薬・注射薬(ボツリヌス療法)があり、診断基準を満たせば保険診療での治療が可能です。市販されている制汗剤を使っているけれども効果がイマイチで多汗にお悩みの方は、いちど皮膚科に相談してみてください。

★編集部・今回深掘りできなかった「自由診療」については、また次回たっぷりお話を聞きます。9月10日号をお楽しみに!



皮膚科 **Q** ハチに刺された場合はどうしたらよいでしょうか? 56歳 男性

A ハチは夏から秋にかけて活動が活発になります。一般的に刺される機会が多いのはアシナガバチとスズメバチです。刺されると、その場所に強い痛みやかゆみを起こし、赤く腫れることがほとんどですが、冷やしたりステロイドの塗り薬で対応すれば通常は問題ありません。ごく一部の方で、刺されてから30分~1時間程度のうちに全身のじんましんや意識低下、血圧低下などを引き起こすアナフィラキシーを生じることがあり、そのような症状がある時には救急対応が必要です。



ここがポイント! 多量のわき汗は原発性腋窩多汗症の可能性があります。保険診療での治療が可能な場合もあるので、皮膚科に相談を。

ここがポイント! 通常時は冷やしたり、ステロイドの塗り薬で対応すればOK。じんましんや意識低下、血圧低下などを起こしたら救急対応を。

今回の教えてドクターは
皮膚科の苅谷先生・藤本先生

先生への質問はP4の読者プレゼントの「ご意見・ご要望欄」からお寄せください。
※取材協力(エールホームクリニック) ☎0258-86-8722

